投　稿　の　手　引　き

（2024 年 11 月 15 日　改定）

1. 記事の内容と言語

“Journal of the Japan Petroleum Institute”は，公益社団法人石油学会が発行する英和混載のオープンアクセスジャーナルで，オンライン／冊子体で年 6 回（隔月, 奇数月）発行する。本誌は，石油採掘, 石油精製, 石油化学およびこれらに関連する領域（たとえば天然ガス，石炭など）の記事を掲載する。

記事の内容は，基礎，応用のいずれでもよく，後者には油田開発における事例研究, 工業プロセスの設計および運転データ，商業製品の性能等，広範囲の事項が該当する。

原則として，記事は新しい結果に基づくもので，他の公開刊行物（著者による特許を除く）に未発表のものとする。

記事の言語は和文または英文のどちらかとする。

記事の掲載の可否は石油学会論文誌編集委員会（以下「本委員会」と略）で決定する。

2. 記事の種類

記事の種類は次のとおりとする。なお，投稿後に記事の種類について変更の希望が生じた場合は, その投稿を撤回した上で, 種類を変更して新規に投稿する手続きが必要となる。

（**1**） **総 合 論 文**（**Review Papers**）

著者のある主題に関する研究業績を，これまでに公表した論文の内容を中心にまとめて体系化し，新たに執筆された論文。なお，未発表の成果を含めることもできる。原則として「本委員会」からの執筆依頼に基づいて投稿される。

（**2**） **一 般 論 文**（**Regular Papers**）

印刷物として未発表のものであって，まとまった研究の成果で価値ある結論あるいは事実を含んでいる論文。掲載論文は論文賞の対象論文となる（石油学会表彰規程第 6 条）。

（**3**） **ノ　ー　ト**（**Research Notes**）

印刷物として未発表のものであって，断片的な研究の成果であっても，新しい事実や価値あるデータを含んでいる論文。

（**4**） **レ　タ　ー**（**Letters**）

実験結果を速報することに重点をおき，新しい事実や価値あるデータを含んでいる短い論文。内容の一部または全てを充実して再度一般論文，ノートとして発表できる。

（**5**） **技 術 報 告**（**Technical Reports**）

報文としての首尾体裁にとらわれず，特定分野における独自に取得した実験データあるいは技術的検討内容をまとめた記事。

（**6**） **部 会 報 告**（**Committee Announcements and Reports**）

本会所属の部会による調査研究結果を報告する記事。

（**7**） **投　　書**（**Reader’s Comments**）

本誌掲載論文に対する意見，または関係研究領域における問題についての評論など。

3. 投 稿 資 格

石油学会の会員, 非会員いずれの投稿も受け付ける。ただし，採用決定後に本会に納める掲載料（**付表 1** 参照）が会員，非会員で異なる。

4. 投稿から刊行まで

（1）原稿提出

原稿ファイルの提出は下記 URL アドレスのサイトで行う。原稿はサイト投稿時に pdf ファイルに自動変換される（受付可能ファイルは, MS-Word, WordPerfect, LaTeX2e（英文のみ），RTF，TIFF，GIF，JPEG，EPS，PICT，PDF，MS-Excel，MS-PowerPoint とする）。原稿提出の際は，原稿情報（和英の共著者名・題目・概要，およびキーワード）については入力が必要となるので，原稿情報のテキストデータを原稿ファイルとともに準備し，投稿サイトにアクセスする。なお，初めてサイトを利用する場合は，サイトへのユーザー登録が必要になる。

https://www.editorialmanager.com/jjpi/

電子投稿にあたって，不明点等がある場合は本会事務局へ問い合わせる。

（公社）石油学会 論文誌編集委員会

E-mail: journal@sekiyu-gakkai.or.jp

（2）原稿作成上のきまりは，a）総合論文，一般論文，ノート，技術報告，部会報告および投書の場合と，b）レターの場合とで異なる。さらに a)，b）それぞれの場合に和文原稿と英文原稿で書式が異なる（詳細は **5. 原稿の構成および長さ**参照）。書式を満たしていない原稿は受理されない。

（3）受理年月日は「本委員会」（事務局）で受付処理を行った日とし，著者に通知する。

（4）原稿は「本委員会」で査読し，必要に応じ著者に訂正を求めた後，採否を決定する。訂正の都度，著者は修正原稿を査読意見に対する「回答書」とともに「本委員会」に提出する。修正原稿の訂正箇所は赤字または別紙に一覧を記す。訂正要求に対し総合論文，一般論文，ノート，技術報告，部会報告，および投書は 2 カ月以上，レターは 2 週間以上回答がない場合，その原稿は撤回されたものとみなし，その旨を著者に通知する。

採否の結果は著者に通知する。採用が決定した著者は，所定の出版権設定契約書を本会に提出するとともに，掲載料（**付表 1** 参照）を本会に納めなければならない。なお，総合論文，部会報告，および投書の場合は掲載料の支払い義務はない。

（5）著者校正は初校または再校で一度行う。校正時の内容の訂正は原則として認めない。

（6）別刷りは有料（**付表 2** 参照）とし，著者の購入希望により注文を受け付ける。

（7）本誌発行後の訂正は著者の申し出があった場合にだけ行う。印刷上の誤り以外の訂正は「本委員会」の承認を必要とする。

（8）本誌は完全オープンアクセスであり，クリエイティブ・

コモンズライセンスを使用している。このライセンスは，利用者が本誌に掲載された論文を無償かつ出版者や著者の事前承諾を得ることなく使用，二次利用することを許可するものである。

記事の著作権は著者に帰属するが，本委員会が推奨するクリエイティブ・コモンズ CC BY-NC-ND 4.0 ライセンス（適切な引用表示をし，かつ非営利目的であり，そして元の記事を改変しないことを主な条件に，記事を自由に再配布できる）に基づき，本会に本誌での記事の発行を許可するための出版権設定契約書に署名することが求められる。なお，著者が希望すれば他の CC ライセンスの使用を認める。

(9) 著者は，セルフアーカイビング（グリーンオープンアクセス）として自身の論文をオンラインリポジトリに登録できる。本誌では，原著論文の著者に対し，本誌からの出版後すぐに機関リポジトリまたは公開リポジトリに論文の出版社版 pdf ファイルを登録することを許容する。

5. 原稿の構成および長さ

原稿は，原稿表紙（Title Page），和文および英文の概要（Abstract），キーワード（Keywords），本文（Text），引用文献（References），表（Table），図（Figure）およびグラフィカルアブストラクト（Graphical Abstract）よりなるものとする。レターの場合は別紙に和文 500 字以内または英文 300 語以内で「速報とする理由」を添付しなければならない。投書については，概要・キーワード・グラフィカルアブストラクトは不要である。

原稿は投稿サイトよりダウンロードした所定のテンプレートに従って作成する。テンプレートを使用しない場合は，以下の手順で作成する。

a）総合論文，一般論文，ノート，技術報告，部会報告，投書の場合

原稿はワードプロセッサーまたはパーソナルコンピューター等を用いて作成するものとする。

1）原稿は A4 の用紙で作成する。

2）文字の大きさは和文・英文とも原則 12 ポイントとする。

3）**和文原稿**の場合，本文は 1 頁あたり 40 字× 35 行とする。**英文原稿**の場合は，1 頁あたり 10 ～ 15 語× 40 行とする。それぞれ約 2 頁が本誌刷上り 1 頁に相当する。

4）英文字・数字は半角とする。

5）原稿の頁番号を原稿の下に必ず記す。原稿の各頁には行番号を入れることが望ましい。

b）レターの場合

A4 用紙に作成された原稿を写真製版するため，原稿は和文または英文で 10～11 ポイント程度の文字を用い適正な行間隔で作成する。概要は英文のものを原稿に記載し，和文概要は別紙にて提出する。標準原稿の Format を**付図 1** に示した。第 1 頁目に上部の空白部が多いことに注意すること。

全体の長さは原則として本誌刷上りで総合論文 10 頁以内，一般論文および部会報告 6 頁以内，ノートおよび技術報告 4 頁以内，投書 1 頁以内，レターは写真製版として 2 または 4 頁とする（題目，概要，本文，引用文献，図・表等を考慮して刷上り頁を投稿前に見積もる）。

6. 原 稿 表 紙（Title Page）

次の事項を記す。ただし，レターにおいては同様の事項を前記のきまりに従ってその第 1 頁に記す。

(1) 記事の種類：総合論文，一般論文，ノート，技術報告，部会報告，投書

(2) 題目（和文および英文）: 簡潔なものとし，「～の研究」“Studies on ～”などの表現はなるべく避ける。原則として省略語は使用しない。

(3) 氏名（漢字およびローマ字）: 連名の著者が異なった機関に属する場合，†1)，†2)，……を氏名の右肩と（4）の所属機関の前に付し対応させる。

(4) 研究の行われた機関名および所在地（和文および英文）: 機関名と部署名に続いて，郵便番号，所在地を記す。著者の所属機関が現在異なる場合は，上記のほかに現在地（Present address）として付記する。

(5) 連絡責任者氏名，E-mail アドレスおよび宛先：論文審査中および掲載後の問い合わせ先となる。連絡責任者の E-mail アドレスは本誌掲載論文 1 頁目の左下に印刷する。E-mail アドレスの印刷を希望しない場合はその旨を明示する。

(6) 備　考：(a) 一連の研究の一部である場合，これまでの発表目録および今後のスケジュール。(b) 口頭発表をしている場合，その発表会名と年月日など。

7. 概　　要（Abstract）

概要は目的，方法および成果を簡潔に示したもので，和文 300 ～ 400 字程度，英文 150 ～ 200 語程度で作成する。なお，概要中では図・表の引用はしない。

8. キーワード（Keywords）

キーワードの目的は，文献検索を簡便化することにあり，下記の基準に従ってキーワードを選び，概要の後に添付する。

(1) 英語で表示する。

(2) 論文の内容を良く表すもの，たとえば a）触媒名，b）反応名，c）原料，d）生成物とその性質，e）研究目的などをよく考え 6 キーワードまでを選定することができる。

(3) キーワードの選定方法は後述するキーワード選定ルールによるものとする。

(4) キーワードは著者が選定する。

(5) キーワードは編集委員会の判断で変更することがある。

［キーワード選定ルール］

(1) 原則として 1 キーワードは 3 語（word）以内とする。

(2) 原則として単数名詞で表現し，前置詞の使用および文章表示を避ける。

(3) 元素記号，化学式を使用しない。

(4) 触媒は次のように表現する。

i ）原則として catalyst をつける。

ex）Alumina catalyst, Zeolite catalyst

ii ）金属触媒は元素名で表示する。

ex）Palladium catalyst, Nickel catalyst

iii）非金属触媒（酸化物触媒など）は原則として化合物名で表示する。

ex）Vanadium oxide catalyst, Bismuth molybdate catalyst

iv）担体が重要である場合は support をつけて触媒元素と別表示する。

ex）Titanium oxide support, Zeolite support

v）複合，多成分触媒は中心となる元素を併記する。

ex）Cobalt molybdenum catalyst, Platinum rhodium catalyst

（5）キーワードには，化合物名，慣用語を除いて原則としてカッコ，ハイフンを使用しない。

（6）商品名は原則としてキーワードにできない。

9. 本　　文（Text）

（1）本文はできるだけ簡潔，的確に整理し，各専門分野における常識的な事柄についての冗長な説明や教科書的な内容は避ける。

（2）和文原稿は簡潔な文章口語体とし，常用漢字および現代かなづかいを用いる。本文中の外国の人名，会社名などは原則として外国つづりを使用する。

（3）術語および物質名は石油学会編「第 2 版 石油辞典」（丸善発行），文部科学省編「学術用語集」，日本化学会化合物命名小委員会編「化合物命名法」および「国際純正および応用化学連合（IUPAC）制定命名法則」などによる。ただし，和文原稿では化合物名は原則として日本語（漢字とカタカナ）で表示する。

（4）単位は原則として SI 単位を使用する。SI 単位以外の使用は本文末尾に換算表を添付することで認める場合もある。

（5）本文の形式は特に限定しないが，緒言（緒論）および結言（結論）を明確にし，なるべく緒言，理論，実験，結果，考察，結言，（謝辞），（付録），（使用記号）などの形式のようにする。ノート，レター，技術報告，投書はこのような項目にとらわれず簡潔に記す。

（6）文中の区分はポイントシステムにより明確にする。

〔例〕1. ……, 1. 1. ……, 1. 1. 1. ……

それ以上に細分の必要がある場合は，(1)，(2)，……，(a)，(b)，…… のようにする。

（7）脚注が必要なときは，文章の段落の右肩に添字で *1)，*2) のように表示し，同じ頁の下に本文と区別して表示する。

（8）段落の始めは 1 スペースあける。

（9）本文中で図･表を引用する場合には，Fig. 1，Figs. 1，2，Table 1，Tables 1，2 と具体的に表示する。

（10）数式は独立したものは $\frac{a}{b}$，$\frac{a+b}{c+d}$ のように書き，文中においては，a/b，(a＋b)/(c＋d) のように書く。式番号は各式の右端に（1），（2），…… のように通し番号をつけ，文中に引用する場合には Eq.（1），Eqs.（1），（2）のように表示する。

10. 付録（Appendix）および使用記号（Nomenclatures）

（1）付録（Appendix）は，本文中に入れると論旨が中断したり，はん雑になる事柄で，脚注の範囲で処理しきれないときに活用し，本文の後に記す。付録をつける場合，本文中の該当箇所でその旨記載する。付録に出てくる図・表および本文と関係ない数式は本文とは独立の番号とする。たとえば Eq.（A-1），Fig. A-1，Table A-1。

（2）使用記号（Nomenclatures）は英文にて作成し，本文の後に記す。記号はアルファベット順に並べ，定義と単位を続ける。必要に応じてギリシャ文字（Greeks），下付き添字（Subscripts），上付き添字（Superscripts）の順にまとめる。

11. 引 用 文 献（References）

（1）引用文献は本文の該当箇所の右肩に，たとえば，I. Newton[1),3)～5)]，または文末では，“…すでに報告されている[6),9),11)]。”，のように通し番号で示し，本文の末尾にまとめて記す。配列については引用文献の出てきた順とする。

（2）引用文献は原則として英文とする。ただし和文で書かれた書籍・成書は和文を併記する。

（3）著者名は「姓」を先にし，「名」の頭文字を次に続ける。著者名は and などをつけず，コンマで続け全員の名前を記す。

（4）雑誌の略号は「Chemical Abstracts」および「化学便覧」（改訂 5（2004）基礎編，付録 1）に従う。英文略号のない和文誌はローマ字で略さずに表示する。なお，本誌の引用については，第 44 巻第 6 号までの掲載論文は *Sekiyu Gakkaishi*（*J. Jpn. Petrol. Inst.*）とし，第 45 巻第 1 号より *J. Jpn. Petrol. Inst.* とする。

（5）雑誌の場合，誌名はイタリック表記または下に____を，巻数はゴチック表記または下に〰〰を，号数および年号には（　　）をつける。書籍・成書の場合，書名には“　”を，年号には（　　）をつける。

（6）異なる文献番号の場合，文献名が同一でも *ibid.* を用いずに繰返し文献名を記す。一つの文献番号中に複数の文献を記載しない。

〔例〕

1) Kolesar Jr., E. S., Wiseman, J. M., *Anal. Chem.*, **61**, 2235 (1989).

2) Arslambekov, V. A., *Izv. Akad. Nauk Gruz. SSSR, Ser. Khim.*, **14**, (4), 307 (1988).

3) Uehara, K., Taketomi, Y., Kunugi, T., *Sekiyu Gakkaishi (J. Jpn. Petrol. Inst.)*, **22**, (4), 203 (1979).

4a) Evans, W. J., Bloom, I., *J. Am. Chem. Soc.*, **107**, (2), 405 (1985).

4b) Evans, W. J., Bloom, I., *J. Am. Chem. Soc.*, **107**, (4), 941 (1985).

4c) Evans, W. J., Bloom, I., *J. Catal.*, **84**, (2), 68 (1983).

5) Tsuda, K., Suezawa, Y., *Kagaku Kogaku Ronbunshu*, **1**, 213 (1975).

6) Runge, W., “Progress in Physical Organic Chemistry,” ed. by Taft, R. W., Vol.13, John Wiley & Sons, Inc., New York (1981), pp. 315-484.

7) The Japan Petroleum Institute, “Petrochemical Processes,” Kodansha Ltd., Tokyo (2001), p. 349.
石油学会編，“石油化学プロセス，”講談社，東京（2001），p. 349.

8) Chester, A. W., Chu, Y. F., U. S. Pat. 4350835 (1982).

9) Satoh, Y., Nagai, K., Maeda, Y., Jpn. Kokai Tokkyo Koho

JP03-151339 (1991).
10) Idemitsu Kosan Co., Ltd., NSK Ltd., Jpn. Kokai Tokkyo Koho JP2000-109870 (2000).
11) Goodman, P. W., 43rd National Meeting of the Chemical Society of Japan, Tokyo, March 1981, Abstr., No. 2K25.
12) Suzuki, I., D. Thesis, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 1995.
13) Tokuhisa, H., *Ind. Eng. Chem. Res.*, in press (IE-890978-0).
14) Kuwata, T., submitted for publication in *Angew. Chem*.
15) Tanaka, Y., personal communication.
16) Agency for Natural Resources and Energy, METI, "The 6th Strategic Energy Plan (outline)," https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf, (data accessed Nov. 21, 2023).

12. 表（Tables）

表や図等は読者の理解を助けるために必要なものである。重複を避け，内容の明確なものを選択し，活用することが望ましい。

（1）表は英文で作成し，原則として A4 用紙 1 頁につき一つの表とする。

（2）表の題目は表の上部に，脚注は下部に書く。各表には用紙の右下隅に著者名を明示する。

13. 図および写真（Figures）

（1）図の題目および説明文はすべて英文で作成する。別紙に Captions to Figures として一覧リストを作成する。原図には図番号と著者名を用紙右下隅に明示する。

（2）図は原則として，A4 用紙 1 頁につき一つの図とする。

（3）図中の文字はすべて英字で作成する。通常は，1/2 ～ 2/5 程度に縮小して印刷するが，図の大きさに応じて縮尺率を決めるので，文字の大きさに配慮する。

（4）校正時に図の修正，加筆がないよう特に注意する（改版の際は実費著者負担）。

（5）写真は図と同等に扱う。本文中の引用は Fig. とする。原則として写真をコピー印刷したものの提出は認めない。

14. グラフィカルアブストラクト（Graphical Abstract）

（1）総合論文，一般論文，ノート，レター，技術報告，部会報告の投稿記事については，論文の主旨が簡潔に理解できるように視覚的にまとめた図（グラフィカルアブストラクト）を作成する。

（2）読者の興味を集めるため本誌の目次に題目とともに掲載され，本会会誌ペトロテックにも同様に掲載される。

（3）グラフィカルアブストラクトは本文に使用する図を使用しても構わない。グラフィカルアブストラクトには，化学構造やスキーム，または簡単な説明文を加えることもできる。

（4）画像は，高さ 45 mm，幅 65 mm 以内に縮小して印刷，公開される。原則としてカラーで作成する。ただし，冊子体では白黒印刷となるので配色や模様には注意する。オンライン公開ではカラーで公開される。

（5）受付可能ファイルは TIFF，GIF，JPEG，EPS，PICT，PDF，MS Office ファイルとする。

（6）編集委員会にて毎号掲載論文の中から表紙用のグラフィカルアブストラクトを選定する。

付表 2　J. Jpn. Petrol. Inst. 別刷り料（20 部単価，10 % 税込）

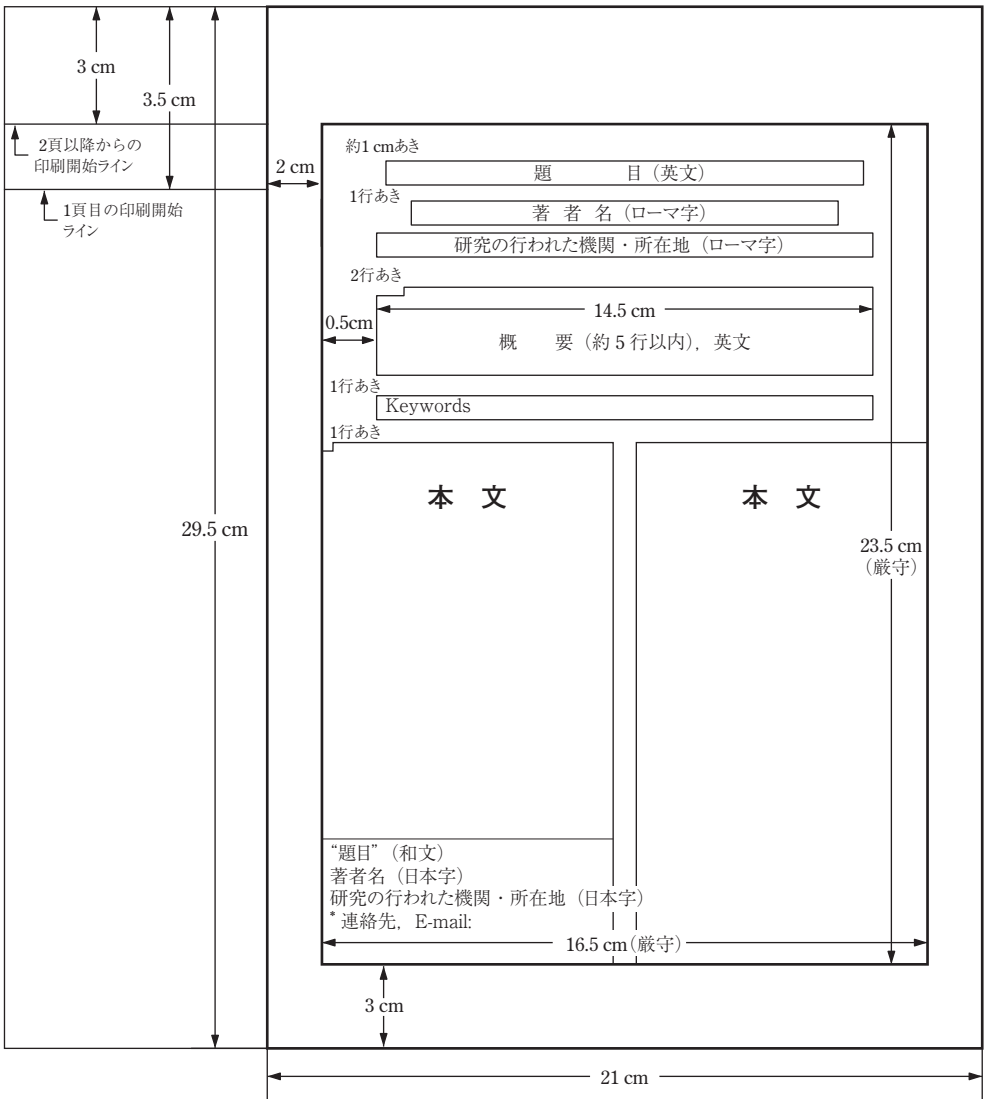
掲載頁	2 頁	3 ～ 4 頁	5 ～ 6 頁	7 ～ 8 頁
20 部単価	3,080 円	3,520 円	3,960 円	4,400 円
掲載頁	9 ～ 10 頁	11 ～ 12 頁	13 ～ 14 頁	15 ～ 16 頁
20 部単価	4,950 円	5,500 円	6,050 円	6,600 円

＊上記金額は白黒印刷で作成した金額である。
＊上記金額のほかに送付・梱包手数料が発生する。
＊注文部数は 20 部単位で受け付ける。

付表 1　J. Jpn. Petrol. Inst. 掲載料（10 % 税込）

刷上り頁	2 頁	3 頁	4 頁	5 頁	6 頁	7 頁
	3,960 円 （2,970 円）	5,940 円	7,920 円 （5,940 円）	9,900 円	11,880 円	15,400 円
刷上り頁	8 頁	9 頁	10 頁	11 頁	12 頁	13 頁
	17,600 円	19,800 円	22,000 円	26,620 円	29,040 円	31,460 円

＊著者の中に本会個人会員が含まれていない場合は，上記金額に一律 5,500 円を加算する。
＊（　）内の金額はレター原稿の場合。
＊総合論文，部会報告，および投書の著者は掲載料の支払い義務はない。



付図 1　レター投稿原稿の標準寸法

A4 用紙（横 21 cm ×縦 29.5 cm）を使用して，横 16.5 cm ×縦 23.5 cm の範囲内に印字する。

＊英文の場合は“Guide for Authors” Attached Fig. 1 を参照する。